



キャンパス／神奈川県厚木市、東京都中野区 学生数／4,673人 創立／1923年(小西写真専門学校)  
建学の精神／時勢の必要に応ずべき写真術の実技家及び研究者を養成し併せて一般社会における写真術の向上発達を図る  
学部／工、芸術  
大学院／工学、芸術学



# 足りない力を自身で発見し補う力を付ける 学修者本位のキャリア教育

## 東京工芸大学

建学時から就職力の高さとステークホルダーの期待に応えてきた東京工芸大学。入学者の多様化を機にキャリア教育を強化。能力を可視化するアセスメントも導入した。



厚木キャンパス事務部教務課 課長

### 齋藤 保男

さいとうやすお ●2009年筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士前期課程修了。教育企業で大学受験塾の運営、社団法人で企業の営業革新支援等に従事後、2001年学校法人東京工芸大学入職。教務、研究支援、産学連携、知財管理、庶務、総務、広報、入試等の各業務に携わり、現在に至る。

#### 一貫通貫のキャリア教育で学生の自律的な就職を促す

大学の前身は写真の学校です。女子短大部（現在は閉校）では日本初の秘書科を設置するなど、建学以来、一貫して実務家の育成を使命としてきました。学生の本来の主たる期待は進路・就職であるため、キャリア教育に力を入れています。2つの学部のうち、芸術学部は専門性と進路が比較的明確ですが、もう一方の工学部の学生は将来を迷いがち。そこで、2001年度に進路を考えるキャリア教育科目を設置。キャリア観を体系的に育成できるよう、学部・学科だけではなく、学長・理事長も入って大学全体で取り組み、質を保证するためのカリキュラムマップやツリー、科目ナンバリングなども早期に整備しました。2010年頃からは、入学者の

多様化が進み、彼ら・彼女らにどう就職力をつけるかが、大学としての大きな課題となりました。全学で検討のうえ、中期計画で打ち出したのは、「全面的な教学改革」です。学生にとって真に必要な就職力とは、目先の就職先を確保すること以上に、自身で目標を定め、学びを通じてそれを成し遂げる力であるはずだからです。

2015年度に、1～3年次の一貫通貫のキャリア教育科目をカリキュラムに組み込みました。就職試験対策とは別に、学修者本人がなりたい将来像を早期に見定め、その将来像と現在地の「ズレ」を正しながら成長していくことを支援する内容です。大学が就職をお膳立てするのではなく、理想の就職に向けて足りない力を学生に気づかせ、学生が自身の力で補っていくという「学修者中心」のキャリア教育を志向しました。

#### アセスメントで可視化した目標との「ズレ」を知る

工学部では、学生が途中段階で能力の到達度を知り、目標に向けて改善するための形成的評価を行うツールとして、汎用的能力を測るアセスメントを導入しました。1・3年次に受検して結果を比較

し、何が身に付き、何が身に付いていないのか。就職活動を始めるまでにどうすべきか。学生自身の自覚、検討を促します。2019年度にはカリキュラムアドバイザー（CA）制度を導入。専任教員1人あたり約10人の学生を受け持ち、研究室入室前の1～3年次にかけて一人ひとりの学生に目が届く体制にしました。汎用的能力のアセスメントの結果も、CAが授業内で個人面談や解説を行い、「受け放し」になることを防いでいます。

アセスメント導入により、大学側としても、「発信力」や「リーダーシップ」が伸びていない実態が把握できました。また、CAと学生とのコミュニケーションからは、「低学年時から専門科目を学びたい」といったような、これまで見えなかった学生のニーズがつかめています。現在構想中の新カリキュラムには、これらへの対応を盛り込もうと考えています。カリキュラム刷新後も、それで完成とは捉えず、随時、見直しを続けます。

課題は、教育と身に付く力のつながりを明らかにすること。DP、成績評価、アセスメント結果などとの関係性を分析し、学生が自身を成長させるにはどのような教育や情報提供が最適なのかを、今後追究していきます。

### DP

(工学部)

- 5.コミュニケーション力や論理的思考力、自己管理能力等の汎用的な技能を有し、実践できる。
  - 7.これまで修得した知識・技能・態度を総合して、正しく整理し、伝えることができる。
  - 8.自ら継続的に学び、自己を成長させるスキルと志向性を有している。
- 8項目中、3項目抜粋

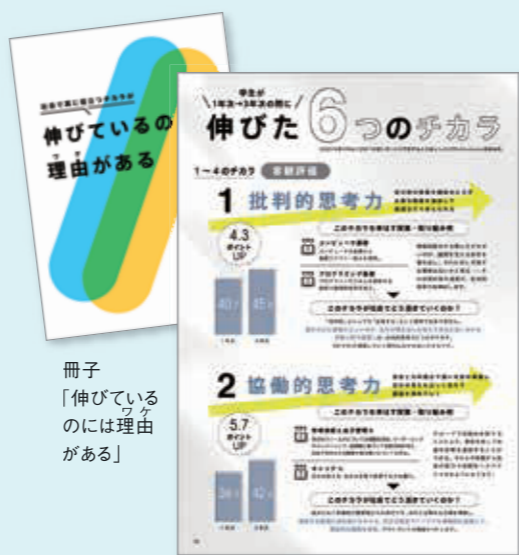
#### 学修者に“気づかせる”&“築かせる”キャリア教育(工学部の例)

	1年次		2年次		3年次
キャリア教育科目	前期 キャリアI 自己分析と行動計画 【必修】	後期 キャリアII プレゼンテーション演習 【必修】	前期 キャリアIII ビジネスとマナー 【選択】	後期 キャリアIV ロジカル・ライティング演習 【選択】	前期 キャリアV 進路を考える 【選択】
	自分の興味、適性、強みなどを把握。社会や職業の理解を深め、進路と学問を結びつける。	ディスカッション、プレゼンテーション等によりコミュニケーション力を高める。	さまざまな人々と信頼関係を築くためのマナーを身に付ける。	社会で求められる、クリティカルシンキング、ロジカルライティングの力を伸ばす。	キャリアI～Vの総まとめを行い、就職活動に向けた準備を進める。
	■「学修技術と自己管理」(必修科目) 大学での学び方を学ぶ。学生は授業内でカリキュラムアドバイザーと個別に面談。将来を考え、2年次以降の学びの分野を選択する。カリキュラムアドバイザーはアセスメントの結果や教務データを活用し、伸ばすべき力、履修すべき科目などを学生に考えさせる。	■「学修技術と自己管理」(必修科目) 大学での学び方を学ぶ。学生は授業内でカリキュラムアドバイザーと個別に面談。将来を考え、2年次以降の学びの分野を選択する。カリキュラムアドバイザーはアセスメントの結果や教務データを活用し、伸ばすべき力、履修すべき科目などを学生に考えさせる。	■目標に応じた柔軟な履修 カリキュラムアドバイザーとの相談によって、入学時に選んだコースを2年次進級時に変更できる。また、将来の目標に応じて、コースを超えた履修も可能。	■個別面談イベント コースによっては、全学生がカリキュラムアドバイザーと面談するイベント、4年生と交流し将来を考えるイベントなどを開催。	■「総合演習I」(必修科目) 授業内でアセスメント結果を返却。コースによっては、カリキュラムアドバイザーと個別に面談。1年次のアセスメント結果と比較し、成長度合いを把握。将来像とのズレを確認させ、修正を促す。
その他の科目・取り組み	汎用的能力アセスメント受検			汎用的能力アセスメント受検	

### 注目

#### 学生の能力ベースのコミュニケーションを重視 汎用的能力のアセスメント結果を発信

工学部は、汎用的能力のアセスメントで可視化した学修成果を、広報にも役立てている。2023年8月に発行した冊子には、測定対象の能力について、1年次と3年次の平均スコアの比較、その能力を伸ばす授業の例、伸ばした能力の社会での生かし方を掲載。PDF版を工学部の受験生サイト\*に掲載するほか、紙版を高校教員や受験生の保護者を中心に配布した。単に能力の伸長をアピールするだけでなく、生徒を送り込んでくれた高校教員に対して、受け入れた側の説明責任を果たしたい思いが強かったという。掲載されている能力には、伸び幅が小さいものも含まれている。教務課主事の橋本俊之氏は、「きれいごとだけではなくエビデンスを発信したかった」と語る。学生をはじめとするステークホルダーとの質保証ベースのコミュニケーションが、同大学で進んでいる一つの表れだと言えよう。これらの取り組みにより、高校生が同大学で身に付く力を理解したうえで入学し、将来の目標を自覚しながら学生生活を送るようになれば、学修者本位の教育がさらに進むだろう。



冊子「伸びているのは理由がある」

\*https://www.t-kougei.ac.jp/admission/engineering/

取材・文／見山雄介 撮影／坂井公秋